

若者たちに伝えたい、  
支え助け合う、結いの心。  
世代を超えて、  
達成感を感じる地域に。

足利徳夫さん  
あしかがとくお

2015年から「結いネット そげい」の会長を務める。「住んでよかった、これからも住み続けたいふるさと私たちの曾慶」の実現を目指す。66歳



13年ぶりの夏祭り、舞台発表、花火などでにぎわった

### 老若男女が参画する 住みよい古里づくり

こうした地域内の話し合いから生まれたアイデアを、地域づくりに役立てている地域があります。

381世帯1242人が暮らす大東町曾慶地区は、古くから互いに支え合う「結い」の精神を大切にしてきました。「結いネット そげい」は、2014年に地域協働体として設立。15年5月に地域づくり計画を策定しました。足利徳夫会長は「小学5年生以上の地区民を対象に、曾慶の未来についてアンケート調査を行いました。回答率は81%と高く、たくさんのアイデアが集まりました」と振り返ります。

## 2

実情

# 若者と地域

地域の行事に参加して、普段、考えていることを伝えてみよう。共に考えることが解決の糸口になる

### 身近な意見交換の場 世代を超え夢を追う

政治はすぐに変えられなくても、政治を見る目は変えられます。身近なコミュニティである地区や集落の行事に参加するだけでも、いろいろなことが見えてきます。現在、市内各地で「明るく豊かで住みよい地域」を実現させるため、地域づくり計画の話し合いが進められています。

「夢はかなう」を合言葉に、若者世代の多彩なアイデアや高齢世代の豊かなスキルを生かしたまちづくりを模索中です。

合いを深めるため、ワールドカフェ（\*1）という手法を用いられました。

前向きなアイデアを地域づくりに生かす  
地域づくり計画ワークショップ（浦津まちづくり協議会主催）は6月9日、浦津市民センターで行われ、参加者は19人がコミュニティ、産業振興、教育・文化・スポーツの3グループに分かれ、未来の地域づくりにアイデアを出し合いました。ワークショップでは、積極的にアイデアを出すため①対等な立場で議論する②一人一回以上発言する③人の話を遮らない④相手の話を否定しないなどのルールが設けられ、話し

2時間の話し合いを終え、各分野からは「おせっかいなおじさんとおばさん（世話役）を増やそう」「地元自慢の素材を持ち寄った『浦津ライスバーガー』を作ろう」「後継者不足で途絶えた『熊ノ倉神楽』を復活させよう」など、浦津地域ならではのユニークなアイデアが出されました。

### 若者が参加しやすい環境を

かつて浦津には青年部がありました。先輩たちが地域を引っ張る姿を見て「いつか自分も」と思っていたものが、若者たちが参加しやすい場や雰囲気をつくるのが大切。学校行事と連携した取り組みを通じ、互いの顔を覚えることから始めたいです。



参加者は普段感じている意見を互いに話し合った



地域づくりワークショップの参加者  
及川善喜さん

真つ先に取り組んだのは、世代を超えて意見が寄せられた「夏祭りの復活」。地域が一丸となって、昨年8月、13年ぶりに復活させました。参加者は地区民の半数近い500人以上。「準備した千本の焼き鳥は、あつという間になくなった。楽しかった」という声に達成感を感じました」と足利会長は満足げです。

「結いネット そげい」は、「夏祭り」「曾慶のPR」「特産品開発」など7つのチームが、曾慶の特性や風土を生かした地域づくりについて、とことん考え、話し合います。各チームから出されたアイデアは、さらに多角的な視点からもまれ、一つになります。

### 異なる価値観を調整し 最適の答えを選択する

十人十色といわれるように、価値観は人によって違います。



地域づくり計画は地域協働体の羅針盤

地域の日常を通して社会に目を向けると、本当に必要なことが見えてきます。政治に対する「希望が持てない」という意見も少しずつ変わっていくのではないのでしょうか。なぜなら、夢や希望は、自分たちで生み出すことができるからです。どんな問題に直面しているのか、どんな解決方法があるのかなど、実際に、自分の目や耳で得た情報は、きつと正しい判断を導いてくれるはずです。

\*1 ワールドカフェ… 与えられたテーマについて各テーブルで数人が議論したあと、進行役以外は別のテーブルに移動する。進行役から前の議論のあらましを聞き、さらに議論を重ねる。これを繰り返すことで、各テーブルに密度の濃い意見が集まる